



敵討米錦繪

二十九

~ 13
4055
10



門 13
號 4055
卷 10

武

魁

石田光成

加筆

三十

仇討天貞東禪繪實記卷之拾九



目録

大正十年八月廿九日
本大學出版部 贈



一 放^{とまれば}約^り四^し節^{せつ}三^{さん}浦^{うら}分^{ぶん}由^ゆ指^さ事^じ

并^{なり}泊^{つり}鐘^{かね}海^{うみ}島^{しま}對^{たい}面^{めん}の^の夏^{なつ}

一 四^し節^{せつ}三^{さん}浦^{うら}分^{ぶん}由^ゆ指^さ事^じ 四^し節^{せつ}三^{さん}浦^{うら}分^{ぶん}由^ゆ指^さ事^じ 四^し節^{せつ}三^{さん}浦^{うら}分^{ぶん}由^ゆ指^さ事^じ 四^し節^{せつ}三^{さん}浦^{うら}分^{ぶん}由^ゆ指^さ事^じ

并^{なり}海^{うみ}島^{しま}の^の八^{はち}節^{せつ}と^と相^あ互^ひの^の夏^{なつ}



仇討天貞東洋繪寫實記卷之拾九

放泊^{とまげ}江^え浦^{うら}一^{いち}浦^{うら}屋^やを^を拵^と事^{こと}

兼^あ泊^{とまげ}屋^や在^あ其^{こゝ}對^{たい}面^{めん}の^の度^ど

か^{こゝ}ら^{こゝ}に^{こゝ}在^ある^{こゝ}ハ^{こゝ}放^{とまげ}泊^{とまげ}江^え浦^{うら}屋^やの^の大^{おほ}門^{もん}に^にり
 入^いりて^てか^{こゝ}ま^まで^であ^ある^{こゝ}人^{ひと}の^の事^{こと}を^をね^ねむ^むゆ^ゆじ
 る^るあ^あの^の三^{さん}浦^{うら}屋^やと^とい^いふ^{こゝ}一^{いち}つ^つち^ち事^{こと}也^{なり}

らんゆづのちえのなかりなづ(はま
りい)ぬぎ(ま)の(はま)く(ま)ら(づ
と)け(ま)る(ゆ)あ(ま)り(服)の(ま)ら
ま(ま)ら(ち)ち(後)して(ま)ら(ん)と
ひ(た)の(ま)ら(ま)ら(ま)ら(ま)ら(ま)
その(ま)ら(ま)ら(ま)ら(ま)ら(ま)
の(ま)ら(ま)ら(ま)ら(ま)ら(ま)
ゆ(い)の(ま)ら(ま)ら(ま)ら(ま)

て(ま)ら(ま)ら(ま)ら(ま)ら(ま)
ま(ま)ら(ま)ら(ま)ら(ま)ら(ま)
く(ま)ら(ま)ら(ま)ら(ま)ら(ま)
ゆ(ま)ら(ま)ら(ま)ら(ま)ら(ま)
くれ(ん)と(あ)の(ひ)ら(ま)と(放)泊(が)ん(ま)
ま(ま)ら(ま)ら(ま)ら(ま)ら(ま)
ま(ま)ら(ま)ら(ま)ら(ま)ら(ま)
ま(ま)ら(ま)ら(ま)ら(ま)ら(ま)
ま(ま)ら(ま)ら(ま)ら(ま)ら(ま)
ま(ま)ら(ま)ら(ま)ら(ま)ら(ま)

ともしゆくおぬさうまゝにふらふらとせいで
まほも人よむらひとそくあやうい
事ありかりのあへくまがちぢぢと
いふのなきはぐーとそらうれど
いとく口量とせむれー人ありま
大樽のちやをよよーあきと
う川よあひてふあかーさふらん
のめきしらぬぞまづあむハウあー

ウケ用とせむべーと放釣ハあへ
いとぬさひーやげやまーとそり
りうがさうさうが少喜の夜のあがま
そや長澤めちうれハ口をば
ちぞとく休まひけけるが花川
とたづゆんとちるーまゝあやう
あはびかり

幸ひある人ともよみやまありて放釣とらねる
とて大まき舟よりさびさうりく座ざ
ましく舟ふね一ちづよりてさくらのあか
げともつて笑さい難なんとのぐれせんま方ま阿
まがさき仕し合あをりりと平へい然ぜん一
てよろこびけしはさうまゆある人の
ていとらるままや一いふべしそその身み
町人てうにんめてありあぐりそのお義ぎ侍ざむらい

もねよむさうらりさぬあれはあを
ゆつてたくゆりくあめお細こ少せう
より町家ちやうみそさち放はな捨ちいあむら
りあるれがさうらよのぞもれ目めあ
ささぐり一ザ後せんのよのあさとあのみ
つぐんと目めぞ海うみのあをあをたぬのあ
しつとれとよよまきをさうりさり
らるが放はな釣ちうはは弁べんと博はく中ちゆうなるいさ

父ちちぜやろが人ひと情なさけの法はり自みづかりまが
 く 家いへ事こと由よしと由よしせやさんそれのなと家いへ
 雅みやび名なと山やま入いり帝ていと帝ていて父ちちハハは総そうおる
 那な中ちゆう泉せん村むらとつふあのみまされりて
 何なにも由よし総そうとつふあされあやまらけ
 とつふより少すくずもだんくみ家いへたと
 ろくゆふ一人ひとりの骨ほねと我われとをまつて
 江戸えど川がわに川がわに流ながり流ながせし

あり父ちちがつゝのののぢりり母はは家いへ
 家いへハ平へい親しん王おう将しょう門もんは流ながるゝの
 来きたるりともるゝとるゝ公こうめ是これと
 差さへホほ友ともの比ひ少せう入いり帝ていとあゝあり
 父ちちが生せい國こくで総そうおる家いへをれバおるは
 を信しんとるのり紋いん西せいとるれどむと付
 るはもか多たく一年いちねんとらみちいぶ
 るあゝとつふのぢまゝは後のち不ふ

かんどむら かんどむら のものありと一車も海さぐ
かこりられが放物おれをゆつてされ
はこそいづきまのゆらじきと
これ眼がんのみながこいぬ中ちゆうあぢあ
まじりつらさ事まりのそやかま
はゆびむははいもぼつゆのぞり
いせしとく及あひびらうらりかとも
ゆてその小次第をたづねあ

他討たうちとしくいせりさんとて様中
よりいさむか一封ととりおーまづ
あふハゆあゆまのうー侍ざんまぬ
はくしとそそれゆなごいぬぞん
トあめりーあめりの雷かみなりが目を
きし侍ざんこそあの人よそかゆらざる
やせしむくむくくくくふたくの
のいよー何あひめよせよ海うみまぬあり

ふがふ年とし老おいよりより陽ひのまま
まはかくがさん比ひとと深こくく一一急きん禪ぜん
ておのづかひはしんををははくくささぶ
めてしん中ちゆうににおおががくく何なんととも
あがあげげるるままたたははみみおおどどろろき
放はなつつととかかららんん人ひとをを志しをを返へん答たう
せせざざりりららととててくくややももいいるる
事ことととおおららののううままににれれ老らう年ねん

るあ別べつりりととまま倉くら光こうおおん
あつあとといいかか人ひとああああてておおののががいいり
せせととままががらら中ちゆうととままららととままああ
ねねんんののううちち新しんひひ成せいららああししせん
ととののいいままひひととけけ新しんハハいいららととた
づづととれれがが海かいににああつつととままととままららひ
ててここれれののああららままききくく新しんににああししととらら
しし也や新しんひひとと高こう年ねんののううちちらら春しゅんのの

とれて居るうりやあ

仇討天貞東洋繪實記卷之九

仇討天貞東洋繪實記卷之拾

目錄

一 天満宮所傳記

英^{えい}商人^{しやうじん}の^の口^{くち}弁^{べん}三^{さん}橋^{はし}節^{ふし}美^みの^の兄^{あに}ありと
る^る事^{こと}

一 雷^{かみなり}治^ち平^{へい}馬^まが^が面^{めん}悪^{あく}と^と分^{ぶん}あ^あ事^{こと}

并^な治^ち平^{へい}馬^ま入^い魂^{たま}も^も事^{こと}

如
 志
 下
 如
 如



仇討天貞東海繪實記卷之五拾

天満文所傳記

兼
 商人の江戸前番首義の兄弟
 と成る事

家母初産跡に生つた商人のものを
 見てあゝ商人のうらやまの中の大
 聖徳とあゝ商人のうらやまの伝説

とえと〜かりぬも石苔いせがひの〜
な〜たぬま事あ〜は〜
みは〜し〜とめさぬたぬ〜
あがき事あ〜が〜
成然ぜいぜん〜功こう名なと〜
海うみ居いたつつか教きょう訓くんもたの〜
平へい少しょうくくせ〜みは〜
教きょう文ぶんと〜と〜

尚年しやうねんの〜ちちは〜
るんるん〜あれれ〜人ひと界かいののはは〜
〜て〜んん〜事ことか〜
あがき神しん佛ぶつのちちからら〜大だいを
小せうと〜ああ〜の感かん應おうのちち〜
るあ〜と〜たたそれそれあ〜も天てん満まんを
い〜りりな〜ららぬぬ〜は〜
氏うぢ出い神かみのちち〜天てん徳とく

日命十二世の孫可美乾坂根の命
のはま野見の者根をとりて公師
の姓をのこるまゝ人王は十九代
光仁天皇天應元年古師をり
とめて菅系せいかの姓をたまたます夫より
数代お継いで後大佐下文章
將士とも菅伴氏の女と女とをりて
菅相懸とくむは字ハ三とパーなる

日本文道の大祖とパー菅神也
傳記も白昌泰三年右大臣右近衛
大将だいしやうと伊ざらまてより寛平弘仁
延喜の朝めいころまで官位昇を
滞りなく文章の家めりてかろ
高官高位なる事古今未なる者
のるらめい洗せんまらつてた近の山身
とるせなむひころどころ

慈雲を以て延長正暦の以て
て正一位大政大臣増官す
より海神とつれこれ國家守護
の海神神本朝よりあまびるもより
しそわらう日出度神の初代末
の事なりさきさきは海神と
あまびるもことごとび海公よりなる
みれひては諸神ほごせむといふ事
なくいふるさきい害ありとも消除
といふ事なく古来よりしてあの
海神よりあまびる事といふこと
そのわざ一ツとして女統せむといふ
事なくそのわざよりあまびる事青
史傳記めくこと今故実より
あまびる事一ツとあまびる事神性
なまはあまびる事合信公たこと

事なく申すの致をいひのりたるに
やう成就をばとく事なるん
や八十子こころ老人の菩薩神の
神法とくさくかへりませせ
れが放物とそりある人のりの
まが感涙汗まめいどたごあり
かしくとむりりみてるまじい袖
むかひぞりりりは帝を信ハ放物
あむいかに徳なる老人みじかん
致をゆきまじんかか川てりしる
はくはくぬぐお語り仕らん
と佛討の始末を明白みてる
はましは海をたつ是をまひてまじり
てあつるまきのぞきある人とやう
ありあつるまきのぞきあり神あり
あつけみりて一目もをやく中を

とげたゆゝあよむるまがらけ老丈も
少のちもるりりさんと老をこぼされ
て信りらる母放駒ハ何く親父どの言
夫ハあう〜母あう〜ねどもた〜ひ
くなそや小千母とあうらるればまこと母
麒麟も怒馬のるま〜今二十年も
何との事あう〜は言まはどのいふ
るまはけと何あうらる母あよびらる母

少左也の是をまきひてソヤ何とソム
放駒は〜ま〜後漢の〜トドめ
老夷大母増紀せ〜光武はれ残
何せん〜と〜人の大將をる〜と〜
ち母ふあその任をかぎぬひ大將軍
馬援う年老〜を〜あ〜あ〜
〜の〜二十年のあ〜
そのあ〜と〜大將とせん

七十の今みしつてふとくひをさる
ふゆとをむ馬後殿上より行て
あれとまきく大みしりり年あひ
多りとくごも常たさるあめ初と
しよぶい年ハよらざらあり老てハ
まさしよ益感んるるべし寧ろ白
首のふとまふんや窮しそは將
よ益かへつらるべし一喜雲のあはれ
とあともさびいそで近年の老るる老
やうやと覽めそふんと殿上より
そんであり初とはふし許と常し
るををせろと村その健るる事性士
しねよふん漢帝殿覽りて馬
後が忠公をうんべつツまハそさかん
る休事を稱しあひ休彼大將軍
任し南を長と任しあひとそつる

ぞして平馬母言統とありさん
のともいづさくぬくとすませ
としくどもあつてま合の勝負は
ていあよびがくまをさる一日
くくとむらあま平馬かあ元
の節大なる働していふく洋判
うくつ費も目くもまをるりをん
あやしくくろるぬくづうのうちあ
働自しんやましく早り今ハ伯父ハちあ
うくともあしんしやうん小者き人
はくひまをとも先生と海邊年ハま
ぶら十ありこざら事るれバを不
あてふ佐友忠佐か再身篠塚か変
おありともてこやうくろるま
治し御やくくハをあおれバちの事
目くまあひつて沙会やむまはし

ていしん のののとりつり物とぞ平馬と
仕とりをやらと喰くお後れよび
ららかていしん の申すもはらとぞいしんの
どのいしんぞやらとぞいしん 平馬といしめ
み大きるらり母あひし事るれは
たまらつて平るがおも母あふんと
しよものもあつち 打はまきくらたたり
かど海をばい徳る谷うん 井用事ら
てま戒らるが席るらうらま 性美
もむらとをくしとぞいしん そのいしり
名そのまくいの、家母通留し目致
ら十日あどわつりららあま常列
所申すありしわたりかど完戸と
しん所ましき人わりてまより
らら母けあまハ水戸梅田各地平
大物民権の由所分るありららあ

多づのりれこ後ごかこししよよままん
例まのの念ねんののけけののここががりりめめま
せんせんめめろろりり——ささのの事ことああぶ
ハハココシシララトト一一口くちのの——そそののかかららり
そそ——そそろろ——ゆゆせんせんままづづちちここ
年ねんのの十じゅう月げつ朔しやく白はく丸まる豆まめハハツツハハありありと
カカのの角かくやや権けん助すけ江え戸ど——少せうるるのの買かい
ああ——めめああんんととそそのの銀ぎんのの宝たから庫ぐら——まま

ドドリリ実じつ方はうのの——おおててここめめ——ちちああいいめ
粘ねり壁かべ——ああのの繩なは子ことと通とほりりかかししも
——にに二に十じゅうはは又また斗とあるある旅たび侍ざむらいとと及および
れれああるるりり——井せい生せい玉ぎよく羽う川がわ山さん取とて
ちちああもも江え戸ど——ああららぶぶ——めめててゆゆく
咄はな——ららるるががめめそそやや一いち里りががありあり
めめててううせせううぶぶええああんんととあありりよよああま
らののちちああむむららひひりりとと——りり多たををよよ

登人のせびとをと付つけしとておせつめひ
居いてままその入用かひようの節せうはゆら
き西にし河がりり火ひ付つ登と城じやうおひたまきまに
殺ころし親おやと縁ゆかりし人ひと殺ころあの能とく人ひとと
縁ゆかり自てめめかかししままししむむぎぎととううつつままは
せぬ事ことなりその時とき節せうはゆららぬ
ままいととかんんぐぐこころろそれそれぐぐのの利りみみぞ
そのそのゆるゆる事ことハハぬぬししががままららるる

ののちちららぎぎ事ことはは何なにぐぐにに日ひれれも
ちちとと江え戸とへへおおてて修しゆ行ぎやうせせううととちちく
ままでで廣くわくくををままししししととぬぬぎぎ
ししてておおららかかそそりりくく江え戸とへへかかりり
別べつ業ぎやうははららままけけららどど中ちゆう務むががるるし
ののううああははららるるああままととぬぬ平へい馬まははととううく
似にここままかかららねねししぬぬぐぐままてて平へい馬まをを
たたぐぐのの旅りよははおおららるるししづづみみで

るに 何さる由はびきい 笑んと 不りかんと
くちりぞ 玄妙んと せらるあ日 能く 習ふ ありて
ンぐら〜と 喜び 多き 江戸 江戸 江戸
リーツ本所 平馬 かく〜 ますひる
あり 平らる あり 一日 日 日 減りて
己も こと ますの こと 去る 六月中の
石洞法 ゆる〜 あり せらる こと せらる
ての 日 減り あり せらる 減りて

海より 平馬 と 一也 一也 一也
て くりんと あり あり と 口 あり
る せらる の 江戸 江戸 江戸 江戸
う ちみ ます あり あり あり あり
かくりて 一方 右 せらる あり あり
能く 習ふ あり あり あり あり
せらる あり あり あり あり あり
あり あり あり あり あり あり

あつるをむらものりたれに江戸めての
雷なりとさも大よみまきか
あどあく一ツ本所平馬か川丹立入
先生あハ出立宿ありやとせくを
どうあくあゆやさひひあき宿の仕
と平馬ハ美よりきかか治ま街
か教とんてソヤ何として巾着
あつるぞまづもつてゆ安念とくび

舞

の何いさらう治ま街ハ平馬か教をけく
どくつんまバ見るあど巾着かをま
しは盗絨の人相書ハ治ま街
あくえくま(先生)先生去年中ハ子ぶ
んぞもが(ア)介のだんゆとびあま
いらんとたのよありとよんあなく
水戸也くあり教ハ巾着く
まうり(ア)そのう(ア)あめあめて

水戸さぬよりあるものにはどり
て余やどるるよりより一
日はりりかへりりるるるる
さびますし海はなれはをく水戸
へおまをせしこいさし
られりらあまがうらうら
ときひて平馬ハ水戸へんといふ
事何やんかへくたなみ治を治の

水戸さぬより水戸といふ
る事となぐりりれは治を治きひて
卯の事でもな水戸極下
却所や丁目角や又水戸といふの
代去る十月福登縄手
合子ハ指又も澄人あま
水戸さぬより水戸味はよく
肉ハもちろん水戸までの

江戸へさうしつ曲のうしその登人
しつとあられびさうまよりしてこれら
か名をさすおよびあつて何とぞ
右の登人とせんきいさよとのおれを
あつたれさ(おちるまゝ)の
さしとの事大さうしつとさうしつ
よ平馬にさうしつとさうしつ
くつとさうしつとさうしつ

治世の登人のいせんがあつた
れたりさうしつとさうしつとさうしつ
のうしつとさうしつとさうしつ
るれどもさうしつとさうしつとさうしつ
るれどもさうしつとさうしつとさうしつ
さうしつとさうしつとさうしつとさうしつ
さうしつとさうしつとさうしつとさうしつ
さうしつとさうしつとさうしつとさうしつ
さうしつとさうしつとさうしつとさうしつ
さうしつとさうしつとさうしつとさうしつ

けり事やとるまげあへりしうらむひ
かくれバ次をばいしもの平高が款
しよく多事あふんせりては
ゆのあふんしよく多事あふんせり
あしやうしよく多事あふんせり
ねどたしよく多事あふんせり
と自分白杖及ぶ人でも人余
としよく多事あふんせり

さうそくしよく多事あふんせり
あしやうしよく多事あふんせり
との一六廿五つては物も思あり
雷ありしんまんあふんせり
あしやうしよく多事あふんせり
さうそくしよく多事あふんせり
たしよく多事あふんせり
さうそくしよく多事あふんせり

口介くしけい一七いちぢおのよおのよううるる男おとこめめららぶぶ
先生せんせいめめハハささややのの事ことハハちちららままどど
れれどどももいいれれととたたののむむのの一いち言ごんははれれ
ハハ富士山ふじさんかかああくくびびししててままががししもも
ううごごううぬぬけけ雷かみなり百ひゃく事じいいれれららがが一いち云ごん
吞のこららめめババ一いち生せい交かうぜぜぬぬ大だい交かう入いりとと
それそれととんんぬぬひひてて雷かみなりががいいぜんぜんののやや
ははまま百ひゃく倍ばいししててちちららををれれ雷かみなり士しとと

足あしくくここりりらら平馬へいばハハ中ちゆう中ちゆうかかつつががああとと
ここのの事こと治ちまま書かががささららせせししととええ
てていいれれららししててああららままししぬぬああとと今いま日ひ
ここごごいいししままののてて福ふく登とうののききははたたれれ
とといいふふああららぶぶらら中ちゆう中ちゆうかかつつががああとといいくく
事ことををくくひひららううててささににががみみななけけまま
平馬へいばああれれどどももああららししてて居い
いいりりししててああららししてて居い

なりと引^ひ交^まく十^じ段^{だん}ん^んみ^みあ^あひ
ま^まら^らみ^みさ^さい^いら^らみ^みと^とい^いざ^ざを^を生^{せい}
ゆ^ゆも^もし^して^てゆ^ゆき^きび^びみ^みあ^あん^んと^とあ
人^{ひと}は^はま^まを^をみ^みて^て一^{いち}つ^つ所^{ところ}を^をか^かし^し申^{まう}
の^の刻^{こく}み^みち^ちう^うれ^れが^がほ^ほろ^ろ各^各より^{より}市^{いち}ヶ^が谷^や
と^と通^{とほ}り^り牛^{うし}込^こり^り秘^ひみ^みさ^さふ^ふさ^さし^しと^とあ^ある^る
さ^さし^して^て十^じ段^{だん}と^とあ^あり^り。

一 仇討天貞東流繪寫身記卷之三拾陸



